

2014年8月25日

サイエンティフィック・システム研究会
システム技術分科会 2014年度第1回会合

「人間系からのセキュリティ対策アプローチ」

津田 宏

株式会社富士通研究所 ソーシャルイノベーション研究所 主席研究員 (兼)
富士通株式会社 クラウド事業本部サイバーディフェンス室 CS2部シニアマネージャー

【講演要旨】

メール誤送信、誤操作、内部不正、標的型メール攻撃など、人に由来したセキュリティ事故やサイバー攻撃は続いており、セキュリティガバナンスにおいてもヒューマンセキュリティホールへの対策がますます重要になると考えられる。本講演では、社内外の実践に基づく以下のトピックについて紹介する。

- (1) メール誤送信対策: 現在富士通の全社利用ツールとなっているメールチェッカーについて、開発から社内10万人利用までの展開における気づきを含めて紹介する。
- (2) 標的型メール対策: メールチェッカーを拡張したクライアント対策ツールの機能および、社内メール訓練における評価について述べる。
- (3) IT被害に遭いやすい人の心理・行動特性分析: 約2,000名に対するアンケートによりIT被害に遭いやすい人の行動・心理的特性を分析した結果を紹介する。(総務省「サイバー攻撃の解析・検知に関する研究開発」の内容を含む)

【参考文献、URL】

(1) メール誤送信対策

- ・メールからの情報漏洩対策技術を開発 (2009/3/13)

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2009/03/13.html>

- ・富士通 SSL 「SHieldMailChecker」 誤送信防止

<http://www.ssl.fujitsu.com/products/network/netproducts/shieldmail/>

(2) 標的型メール対策

- ・業界初! 標的型メール攻撃を端末側でリアルタイムに検知・警告する技術を開発

(2012/5/15 プレスリリース) <http://pr.fujitsu.com/jp/news/2012/05/15-3.html>

(3) IT被害に遭いやすい人の心理・行動特性分析

片山, 寺田, 津田, 利用者の行動特性を用いたサイバー攻撃における成りすまし対策技術, 人工知能学会全国大会 2014.

寺田, 津田, 片山, IT被害に遭いやすい心理的・行動的特性に関する調査, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2014)シンポジウム, 2014.